

2026 年度

愛知学院大学大学院

文学研究科

歴史学専攻

一般入学試験問題

解答および解答例・出題の意図

博士前期課程 秋季入学試験

一般入試（2025年10月4日実施）

【専修科目】

考古学研究（Ⅱ）（歴史考古学研究）

〈採点時の評価ポイント〉

問1は基本事項について不足なく触れることができているかどうかを評価のポイントとした。

問2はどのような3D計測技術を知っているか、それらと手実測との違いについて長所と短所を認識できているか、そして論理的に文章で説明ができているかを評価のポイントとした。

問3は研究対象に対する理解の度合い、そして指定された視点で論理的な説明が十分にできているかどうかを評価のポイントとした。

〈出題の意図〉

問1は歴史考古学に関する事柄や近年話題となった事柄などの語句説明である。学部2～3年の講義で学ぶ考古学に関する基礎的な知識の確認を意図した。

問2は考古学において遺構・遺物の図化は資料化のための必須手段である。従来は手実測が主流であったが、近年はデジタル計測技術が飛躍的に進歩しており、そうした現状に対してどのような考えをもっているか、またどのような3D計測技術があることを知っているか確認することを意図した。

問3は受験者が自身の研究対象についてどのように理解し、把握することができるか、また論理的な文章を作成する能力があるかどうか確認することを意図した。

【外国語】

英語

〈解答例〉

グローバリゼーションは比較的新しい用語であるが、すでに 1990 年代には「第三千年紀への人類社会の移行を我々が理解する」鍵となる概念とされていた。要するに「その時代が到来した考え」である。この考え自体は、それらによって引き起こされた主張が避けがたく議論的になってきたにせよ、疑いなく急速に増加するこの主題についての書籍の形で到来している。いまや立ち往生する学生を助けるために、すでに文献の山となっているものについてのガイドが作られ、拡張し変化するこの主題の最前線を監視する必要をになった番人は常に警戒状態にある。この論争のただなかで、こうした文献の筆者たちはグローバリゼーションの歴史的次元を理解することが重要であるとする点では一致している。グローバリゼーションが果たして新しい事象なのか、そうではないのか、したがってその独自の名称に値するのかという中心的問題については、その歴史的起源を探求し過去の転換点について判断することなしには答えることができない。しかしながら、こうした評価は豊富にあるものの、それらはこれまで歴史家以外の社会学者だけによって行われてきた。結果として出された分析は啓発的なものもあったが、歴史文献に詳細かつ深く携わるものではなかった。結果として、歴史家にとって、この広範囲にわたり話題を集める議論に、体系的かつ効果的な貢献ができる大きな機会がおとずれているのである。本書の主要な目的は、その実現を確かなものとするところである。

〈出題の意図〉

グローバリゼーションに対する世界史からの貢献を課題とする出題文の内容を正確に理解できているか。

〈出典情報〉

A.G.Hopkins ed., Globalization in World History, (London, 2002).

博士前期課程 春季入学試験

一般入試（2026年1月24日実施）

【専修科目】

考古学研究（Ⅰ）（先史考古学研究）

〈採点時の評価ポイント〉

いずれの問いを選択しても評価に影響しないが、

- 1) 問いに対して的確に答えているか
- 2) 専門的用語を適切に使用できているか
- 3) 学部レベルの基本的な知識が習得できているか

を主な評価基準とする。

〈出題の意図〉

出願者の動機、専門領域は様々であるため、先史考古学と研究室で指導できるできるだけ幅広い範囲の作問をして、受験者が選択できるように配慮した。いずれの問いも難易度はほぼ同じである。

考古学研究（Ⅱ）（歴史考古学研究）

〈採点時の評価ポイント〉

問1は基本事項について不足なく言及することができるかどうかを評価のポイントとした。

問2は考古学と歴史学の関係について把握することができるか、そして論理的に文章で説明ができているかを評価のポイントとした。

問3は研究対象に対する理解の度合い、そして指定された視点で論理的な説明が十分にできているかどうかを評価のポイントとした。

〈出題の意図〉

問1は歴史考古学に関する事柄や近年話題となった事柄などの語句説明である。学部2～3年の講義で学ぶ考古学に関する基礎的な知識の確認を意図した。

問2は考古学が歴史学とどのような関係にあり、それぞれの特性や差異がどのような点にみとめられるのかを理解できているかどうかを確認することを意図した。

問3は受験者が自身の研究対象についてどのように理解し、把握することができるか、また論理的な文章を作成する能力があるかどうかを確認することを意図した。

【外国語】

英語

〈解答例〉

一次史料は過去の束の間を垣間見せてくれる。それらは過ぎ去った時代の人々の心配事や考え、言ったことを記録している。私たちの時代に根付いた、私たち自身の歴史的理解に対するこれらの言葉やイメージの関係性は、必ずしも簡単なものではない。以下のページではこのような文書にいかに取り組むべきかについて考察していく。

全ての一次史料は独自の視点を持っている。資料の作者ないし作者たちはある特定の主題についての彼ら自身の見解を示そうとした。ある文書が客観的に思えても、私たちは作成者が客観的ではなかったということに常に思い起こす必要がある。なぜなら彼ないし彼女は強固でかつ避けがたい文化的仮定のもとで行動していたからである。すべての一次史料に偏見がかかっていることを認めたとしても、しかしながら、それらが過去を再構築する方法としてもつ価値を決して疑わせるものではない。実際その偏見に気づくことで、私たちはそれらをすべて却下してしまう、あるいは批評なしに受け入れてしまうのではなく、それらを賢明かつ注意深く扱うようになる。これらの偏見は彼や彼女が生きていた時代の慣習や考えをかなり明らかにする。したがって、私たちは文書の明示的内容を利用してある特定の事件を描き出すのみならず、作者、場合によっては作者をとりまく人々の考え方についての私たちの推測による理解を足すことができるのである。

もう一つ注意しておくべき制限は、一次史料ははるかに大きな歴史的絵画のほんの一部のせいぜいスナップショットしか提供しないということである。歴史家は、どんな単一の文書の意味についても、一般的文脈から離して過大評価をすることがないよう警戒しなければならない。実際ある文書の妥当性は、それが書かれた当時の文脈を私たちがはっきり理解したときようやく明らかになるのである。

〈出題の意図〉

歴史学において重要な一次史料の読み方に関する課題英文の内容を正確に理解できているか。

〈出典情報〉

A. F. Khater ed. Sources in the History of the Middle East, Boston, 2004